

「令和6年度あいち環境づくり推進協議会」会議録

日 時：令和6年8月20日（火） 午後2時00分から午後3時30分まで

場 所：愛知県自治センター6階 602会議室

出席者：構成員 14人、事務局職員 12人、傍聴者 0人

概 要：

1 開会あいさつ

愛知県 武田環境局長

2 議事

(1) 第5次愛知県環境基本計画の進捗・構成員との取組事例について

資料1から資料3に基づき、事務局から説明を行った。

【主な質疑・意見等】

(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長)

資料2の大気汚染の進捗状況について、光化学オキシダントの達成率が0%となっている。他の都道府県の状況や、基準の見直しの動きなどについて教えてほしい。

(事務局)

光化学オキシダントの環境基準達成率は、最近の全国的な状況を申し上げると、一般局で0.1%又は0.2%程度であり、極めて低い状態である。対策等を検討していると思うが、発生機構の複雑さなどから依然として達成率が上がらない状況となっている。

基準を変更するという話は聞いていない。

(2) 構成員からの取組紹介

- ・地域脱炭素及び熱中症対策について

資料4に基づき、環境省中部地方環境事務所環境対策課 小倉課長補佐から説明があった。

【主な質疑・意見等】

(愛知県青少年団体連絡協議会 成瀬会長)

今までには経験したことがないような暑さが続いている。このような状況の中で、地震等で停電になり、クーラー等が使用できなくなってしまうたらど

うなるのだろうかと不安になることがある。

ご高齢の方等には、熱中症の予防と対処について説明するため、直接訪問やチラシ配布などを行っている。その他に効果的な普及啓発方法があれば教えてほしい。

(環境省中部地方環境事務所 環境対策課 小倉課長補佐)

エアコンの性能を10年前と比較すると、省エネに加えて、CO2排出量の面や風の当たり方などにおいてのエコ能力が大きく向上している。また、サーキュレーターを併用すれば、室内空気が攪拌されるため、効果的に部屋の温度を下げるができるうえ、節電効果も期待できる。このような情報等も一緒に伝えてあげると良いかもしれない。

また、こまめに水分補給を行うことも大切である。

ご高齢の方等にはインターネットをあまり見られない方もいらっしゃると思うので、直接のお声掛けも大切だと思う。

チラシ等には、情報を沢山載せるのではなく、分かりやすくポイントを絞って記載する事が重要だと思う。

今年4月から熱中症特別警戒アラートの運用が始まったが、皆様でお声掛け等を実施しながら、熱中症対策を行っていききたい。

(愛知県 武田環境局長)

効果的な普及啓発方法など、有益な情報共有の場として、今後も本協議会をご活用いただきたい。

・愛知環境カウンセラー協会の活動紹介

資料5に基づき、NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長から説明があった。

【主な質疑等】

(愛知県 武田環境局長)

ワークショップを始め、様々なイベント等に出展されているが、自治体や協議会の構成員に対する要望やメッセージなどがあればお聞かせいただきたい。

(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長)

環境カウンセラーに応募される方が、制度の開始当初に比べて少なくなっ

ているため、PR の機会をいただくと大変助かる。また、様々な場面で環境カウンセラーをご活用いただくと幸いである。

・一般社団法人環境創造研究センターの取組について

資料6に基づき、一般社団法人環境創造研究センターの清本専務理事から説明があった。

【主な質疑・意見等】

(愛知県 武田環境局長)

地球温暖化防止活動推進員の人数や状況等について教えてほしい。

(一般社団法人環境創造研究センター 清本専務理事)

愛知県内では150名程度の推進員が活動している。ストップ温暖化教室の出前講座の講師、各自治体の環境イベントでのブース出展、子供達への温暖化に関する普及啓発や行動変容に繋がる講座の実施など、非常に熱心に活動している。但し、推進員の高齢化が進んでいるという課題もある。今後、多くの若い方にも推進員になっていただき、より活性化していきたいと考えている。

- ・あいちエコアクション・ポイント事業及び環境学習事業について
- ・三河湾ブルーカーボン推進事業について
- ・あいち脱炭素経営支援プラットフォームについて
- ・伊勢湾流域圏海洋ごみ対策推進広域計画について

資料7から資料10に基づき、事務局から説明を行った。

【主な質疑・意見等】

(一般社団法人中部SDGs推進センター 戸成代表理事)

あいちエコアクションポイントについて、どのような方法で周知しているか教えてほしい。

(事務局)

店舗やイベントでのチラシ配布、「広報あいち」やWebページへの掲載、テレビでのPRなど、様々な媒体で広報を行っている。

(愛知県 武田環境局長)

補足すると、「広報あいち」とは、県の主要施策や県民生活に関わりの深い県政情報を、毎月第1日曜日に、中日新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞に掲載している記事のことである。

今後も参加人数を増やすために積極的に広報をしていきたいと考えている。皆様にもご協力いただけると幸いである。

(一般社団法人中部経済連合会 田口価値創造本部長)

様々な取組がいろいろな場所で行われており、各団体には、行政及び企業の取組に関する非常に多くの情報が届いている。

本日も多くの情報提供があり、1つ1つの取組は良いものだと思うが、全体の中でどこに力点を置くのか、シナジーをいかに生み出していくのかについても議論出来たら良いと考えている。

例えば、中経連においては、産官学連携の取組として、名古屋大学を始めとする東海国立大学機構と連携して環境関連フォーラムを開催するなど取組んでいる。

各団体がせっかくいろいろな取組をされているので、本日のご意見等も踏まえて、各取組の相乗効果によって、さらに良い取組へとしていけたら良いと思う。

(事務局)

今後の参考にさせていただく。

(環境省中部地方環境事務所 環境対策課 小倉課長補佐)

子供も体験できるものがあると、取組の効果がより上がると思う。ブルーカーボン推進事業について、子供が体験できる様な取組は何か考えているか。なお、先程、連携によるシナジーというお話があったが、環境省としても出来ることがあれば連携・協力していきたい。

(事務局)

県としても、子供が体験できるイベントは重要であると考えているため、その様なイベントを企画して進めているところである。

例えば、今年の2月には、名古屋港管理組合等と連携して、ブルーカーボンのシンポジウムを開催した。そこでは、座学に加えて、子供達が生き物に触って体験できる様なコーナーを設置して、子供から大人まで、楽しく学べる機会を提供し、好評を得た。今後もこの様な取組を進めていきたいと考え

ている。

(愛知県 武田環境局長)

今後も皆様からご助言等をいただきながら、皆様と連携して取組を継続・発展させていきたいと思う。

(3) その他

資料 11 及び資料 12 について、事務局が説明を行った。

以上